

2019 年度第 4 四半期（2020 年 1～3 月期） 長岡市景況調査報告書（概要版）

2020 年 5 月

長 岡 市
長岡商工会議所
(調査機関) (株)ホクギン経済研究所

I. 調査の概要

1. 調査の目的

長岡市と長岡商工会議所が共同で、四半期ごとの長岡市内事業所の景気動向を調査することにより、現在の景況を把握し今後の施策に反映させるための基礎資料とする。

2. 調査の方法

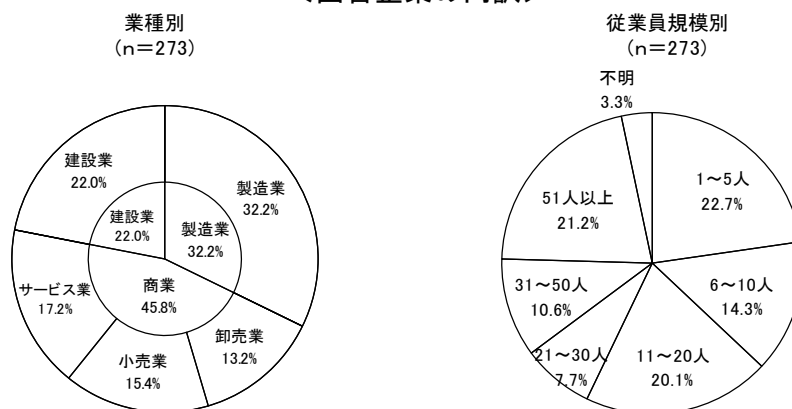
- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| (1) 期 間 | 2020 年 4 月 24 日(金)～2020 年 5 月 19 日(火) |
| (2) 方 法 | 郵送による記名アンケート方式 |
| (3) 対象先数 | 400 事業所 |
| (4) 回答先数 | 有効回答 273 事業所 |
| (5) 有効回収率 | 68.3% (273/400) |

3. 回収状況

回収状況は下記の通り。

	調査対象企業数 ()は構成比率(%)	回答企業数 ()は構成比率(%)	回収率(%)
製 造 業	131 (32.8)	88 (32.2)	67.2
卸 売 業	51 (12.8)	36 (13.2)	70.6
小 売 業	66 (16.5)	42 (15.4)	63.6
サービス業	74 (18.5)	47 (17.2)	63.5
建 設 業	78 (19.5)	60 (22.0)	76.9
合 計	400	273	68.3

＜回答企業の内訳＞



Ⅱ. 調査結果の概要

1. 景気動向に関する調査

(1) 業況判断の動向

- ・2020年1～3月期の業況判断DI（前年同期比「良い」の事業所割合－「悪い」の事業所割合）は△56.5。前期比△15.1ポイントの大幅な悪化となった。
- ・2020年4～6月期は△75.2と、2020年1～3月期から△18.7ポイントの悪化となる見通し。
- ・業種別に業況判断DIをみると、製造業は、2020年1～3月期が△56.4(前期比△11.4ポイント)と悪化した。2020年4～6月期は△80.9(今期比△24.5ポイント)と引き続き悪化する見通し。
- ・商業（卸売業、小売業、サービス業の合計）は、2020年1～3月期が△61.4（前期比△12.5ポイント）と悪化した。2020年4～6月期は△77.5（今期比△16.1ポイント）と引き続き悪化する見通し。
- ・建設業は、2020年1～3月期が△46.5（前期比△29.0ポイント）と大幅に悪化した。2020年4～6月期は△61.8（今期比△15.3ポイント）と引き続き悪化する見通し。

【現況】(2020年1～3月期)

業種	良い (%)	不変 (%)	悪い (%)	業況判断DI (良い－悪い)	前回調査DI (2019年10～12月期)
製造業	11.8 (△0.3)	20.0 (△10.8)	68.2 (+11.1)	△56.4 (△11.4)	△45.0
商業	10.9 (+3.7)	16.8 (△19.9)	72.3 (+16.2)	△61.4 (△12.5)	△48.9
建設業	7.1 (△8.7)	39.3 (△11.6)	53.6 (+20.3)	△46.5 (△29.0)	△17.5
全体	10.4 (△0.1)	22.7 (△14.9)	66.9 (+15.0)	△56.5 (△15.1)	△41.4

※()内の数字は前回調査「2019年10～12月期の現況」からの増減

【見通し】(2020年4～6月期)

業種	良い (%)	不変 (%)	悪い (%)	業況判断DI (良い－悪い)
製造業	4.8 (△7.0)	9.5 (△10.5)	85.7 (+17.5)	△80.9 (△24.5)
商業	4.5 (△6.4)	13.5 (△3.3)	82.0 (+9.7)	△77.5 (△16.1)
建設業	5.5 (△1.6)	27.3 (△12.0)	67.3 (+13.7)	△61.8 (△15.3)
全体	4.8 (△5.6)	15.2 (△7.5)	80.0 (+13.1)	△75.2 (△18.7)

※()内の数字は今回調査「2020年1～3月期の現況」からの増減

<業況「良い」・「悪い」の理由>

- ・2020年1～3月期の業況「良い」・「悪い」の理由をみると、業況「良い」の理由は、5業種とも「需要動向の好転」（建設業は「官公需要の好転」）の割合が最も高かった。
- ・業況「悪い」の理由は、5業種とも「需要動向の悪化」（建設業は「民間需要の悪化」）の割合が最も高かった。

業況「良い」の理由（上位5位まで、複数回答、下段：%）

業種 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
製造業 (n=10)	需要動向の好転	販路の拡大	資金繰りの好転	原材料・仕入単価の低下	新分野への進展
	70.0	10.0	10.0	10.0	10.0
卸売業 (n=2)	需要動向の好転	販路の拡大			
	50.0	50.0			
小売業 (n=7)	需要動向の好転	販路の拡大	売上単価の上昇	新製品の開発・取扱い	
	42.9	28.6	28.6	14.3	
サービス業 (n=4)	需要動向の好転				
	100.0				
建設業 (n=2)	官公需要の好転	販路の拡大	資金繰りの好転	経費削減の進展	新製品の開発・取扱い
	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0

※複数回答のため、割合の合計は100%にならない。

業況「悪い」の理由（上位5位まで、複数回答、下段：%）

業種 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
製造業 (n=58)	需要動向の悪化	資金繰りの悪化	販路の縮小	経費負担の増加	原材料・仕入単価の上昇
	94.8	19.0	13.8	13.8	10.3
卸売業 (n=27)	需要動向の悪化	販路の縮小	売上単価の低下	資金繰りの悪化	経費負担の増加
	88.9	22.2	18.5	14.8	14.8
小売業 (n=25)	需要動向の悪化	資金繰りの悪化	販路の縮小	売上単価の低下	原材料・仕入単価の上昇
	72.0	20.0	16.0	12.0	12.0
サービス業 (n=31)	需要動向の悪化	資金繰りの悪化	売上単価の低下	経費負担の増加	販路の縮小
	80.6	29.0	25.8	19.4	16.1
建設業 (n=30)	民間需要の悪化	官公需要の悪化	資金繰りの悪化	原材料・仕入単価の上昇	販路の縮小
	70.0	60.0	20.0	16.7	13.3

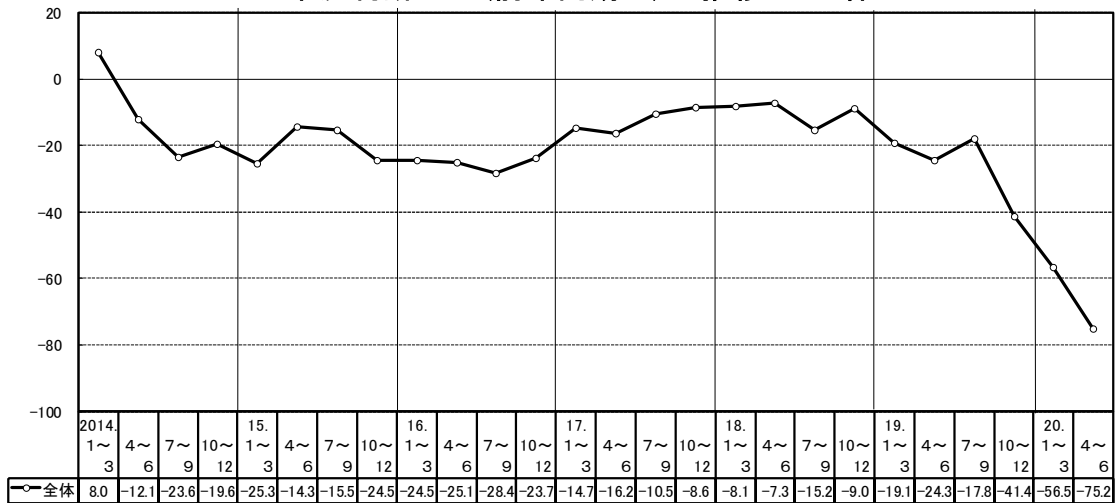
※複数回答のため、割合の合計は100%にならない。

<長期的（2014年1～3月期以降）にみた趨勢>

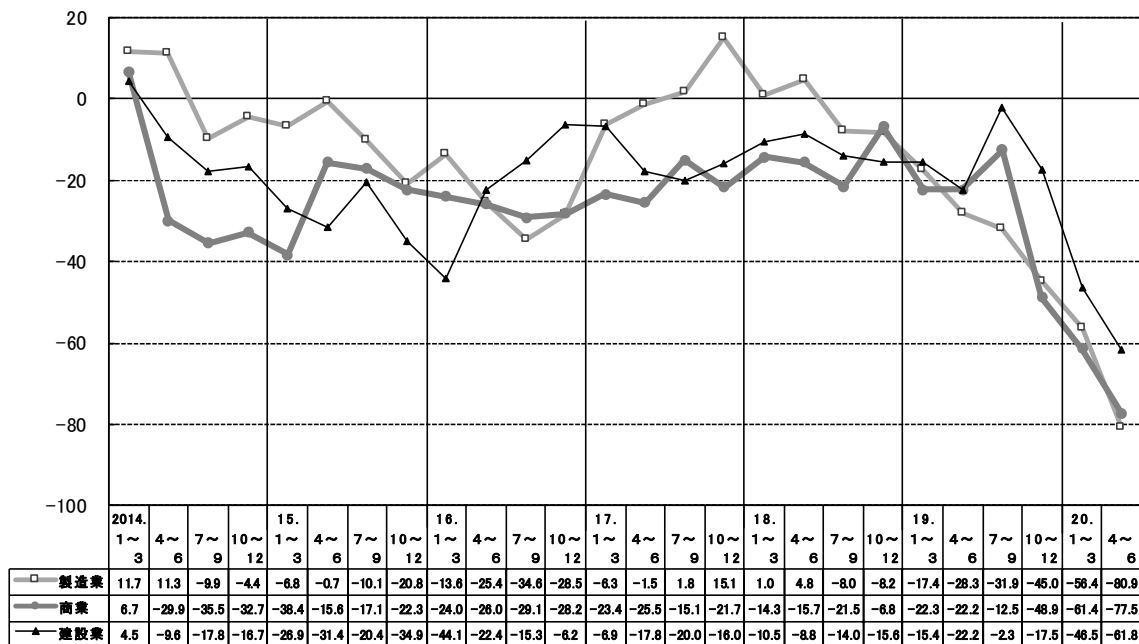
業況判断D Iは、2014年4月の消費税率8%への引き上げの影響を受けて2014年4～6月期にマイナスに転じた以降、マイナス圏での一進一退の動きが長く続いた。

D Iは、2016年10～12月期以降、緩やかな持ち直し基調を示したが、2019年1～3月期以降は弱含みの動きに転じ、2019年10～12月期には2019年10月の10%への消費税率引き上げの影響を受けて大きく低下した。足元は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けてさらに低下している。

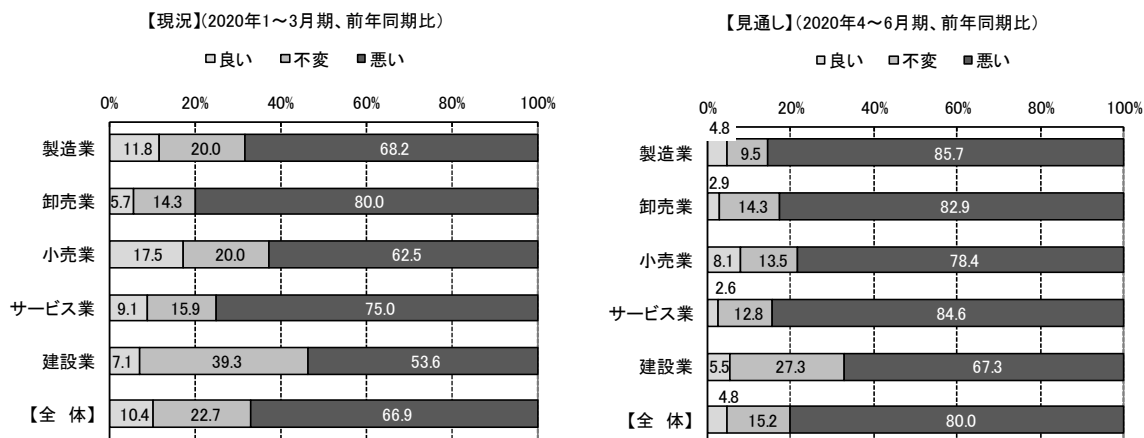
業況判断D I（前年同期比）の推移 <全体>



業況判断D I（前年同期比）の推移 <業種別>



- ・ 5業種別に業況判断の動向をみると、2020年1～3月期は、「悪い」の回答割合が卸売業（80.0%）とサービス業（75.0%）で特に高く、7割を超えている。
- ・ 2020年4～6月期は、「悪い」の回答割合が5業種全てで2020年1～3月期比増加し、製造業（85.7%）、サービス業（84.6%）、卸売業（82.9%）では8割を超えている。



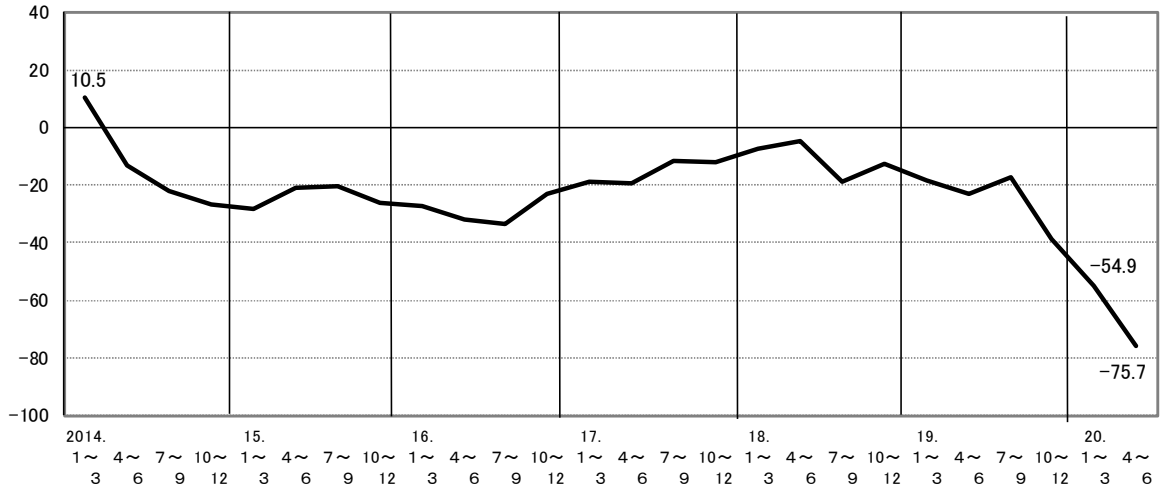
(2) 売上高の動向

- ・ 2020年1～3月期の売上高DI（前年同期比「増加」の割合－「減少」の割合）は全体で△54.9。2019年10～12月期(△38.8)と比較し△16.1ポイントの大幅な悪化となった。業種別では、小売業を除く4業種で悪化した。
- ・ 2020年4～6月期の売上高DIは、全体では△75.7と2020年1～3月期比△20.8ポイントの悪化となる見通し。業種別では、5業種全てで悪化する見通し。

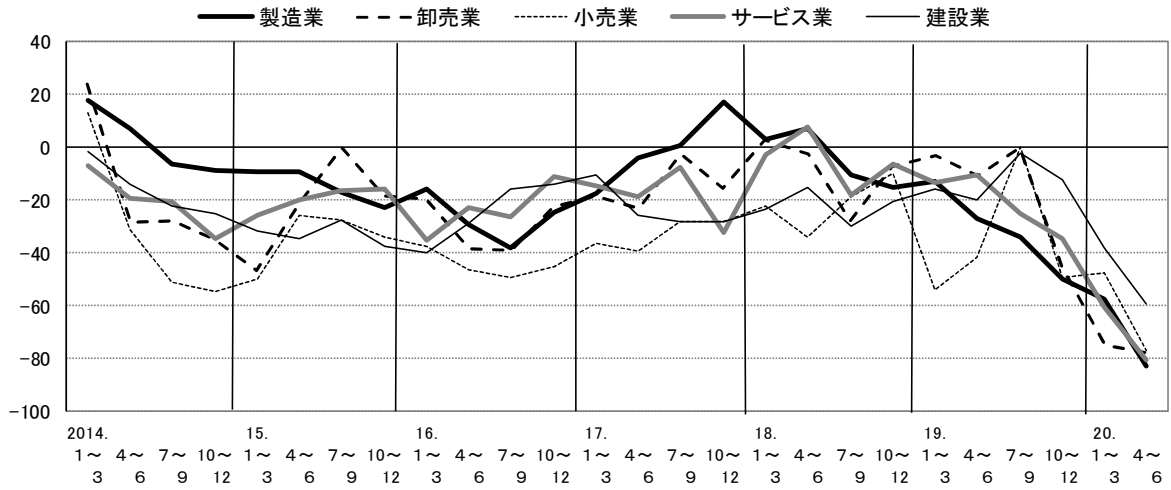
売上高の動向(前年同期比)

業種	前回調査DI (2019年 10～12月期)	現況 (2020年1～3月期)				見通し (2020年4～6月期)			
		増加 (%)	不変 (%)	減少 (%)	売上高DI (増加－減少)	増加 (%)	不変 (%)	減少 (%)	売上高DI (増加－減少)
製造業	△50.0	14.1	14.1	71.8	△57.7	4.6	8.0	87.4	△82.8
卸売業	△45.0	5.6	13.9	80.6	△75.0	2.8	16.7	80.6	△77.8
小売業	△48.9	17.5	17.5	65.0	△47.5	5.1	12.8	82.1	△77.0
サービス業	△34.6	11.6	16.3	72.1	△60.5	2.4	14.6	82.9	△80.5
建設業	△12.0	12.7	36.4	50.9	△38.2	5.4	30.4	64.3	△58.9
全体	△38.8	12.7	19.7	67.6	△54.9	4.2	15.8	79.9	△75.7

売上高DI(前年同期比)の推移【全体】



業種別売上高DI(前年同期比)の推移



(3) 設備投資の動向

- ・2020年1～3月期の設備投資は、全体では「実施した」が24.8%（前回調査32.4%）と、前回から7.6ポイント低下した。
- ・2020年1～3月期で設備投資を実施した事業所の投資内容は、「OA機器」、「車両・運搬具」、「生産設備」が多い。
- ・2020年4～6月期は、設備投資を「計画している」が25.8%と、今期「実施した」割合とほぼ横ばい。
- ・2020年4～6月期に設備投資を計画している事業所の投資内容は、「生産設備」、「OA機器」、「車両・運搬具」が多い。

【現況】2020年1～3月期の設備投資

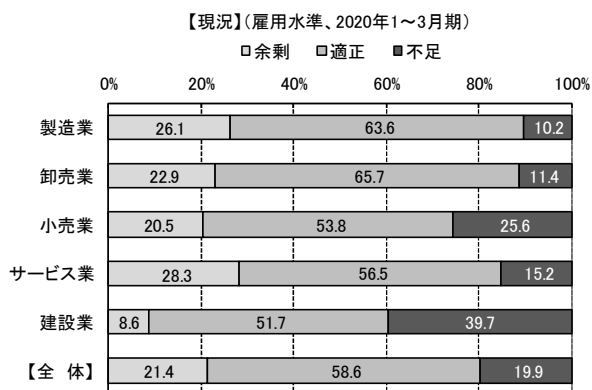
業種	実施した(%) 【()内は事業所数】	投資内容(事業所数、複数回答)								実施しなかった(%)
		土地	建物	生産設備	車両・運搬具	付帯施設	OA機器	福利厚生施設	その他	
製造業	21.6 (19)	0	4	10	0	2	6	0	1	78.4
卸売業	8.6 (3)	0	0	0	2	1	1	1	0	91.4
小売業	31.0 (13)	1	2	2	1	4	9	1	1	69.0
サービス業	31.1 (14)	0	2	1	4	3	5	0	2	68.9
建設業	30.0 (18)	0	1	3	10	1	6	2	1	70.0
全体	24.8 (67)	1	9	16	17	11	27	4	5	75.2

【計画】2020年4～6月期の設備投資

業種	計画している(%) 【()内は事業所数】	投資内容(事業所数、複数回答)								計画していない(%)
		土地	建物	生産設備	車両・運搬具	付帯施設	OA機器	福利厚生施設	その他	
製造業	31.8 (28)	1	5	15	2	5	6	0	1	68.2
卸売業	20.0 (7)	1	0	1	3	1	3	0	1	80.0
小売業	27.5 (11)	1	2	4	2	3	7	0	1	72.5
サービス業	23.9 (11)	0	2	3	4	2	1	0	1	76.1
建設業	20.7 (12)	1	0	3	3	2	2	0	1	79.3
全体	25.8 (69)	4	9	26	14	13	19	0	5	74.2

(4) 雇用の動向

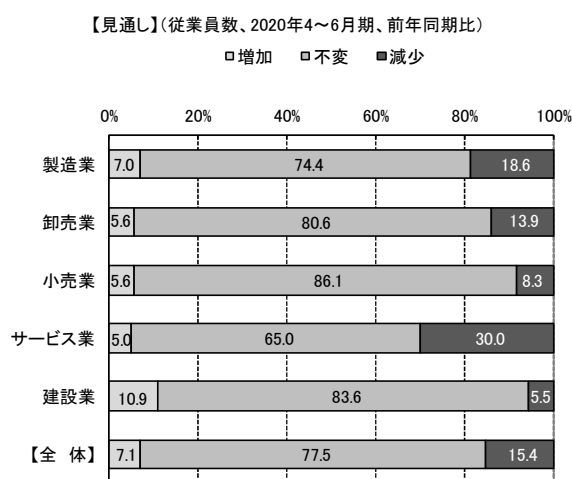
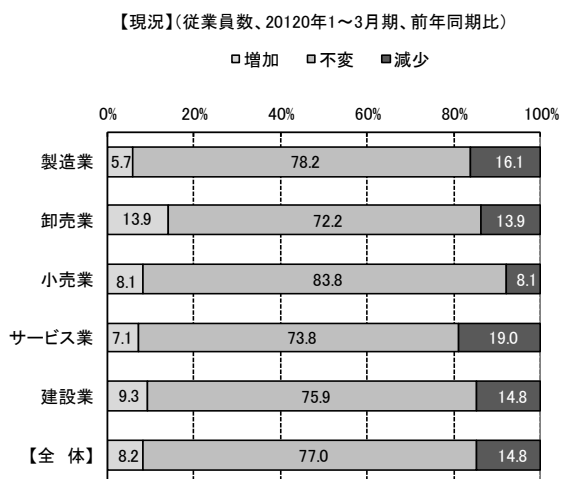
- ・2020年1～3月期の雇用水準は、全体では「余剰」21.4%（2019年10～12月期7.1%）、「適正」58.6%（同63.6%）、「不足」19.9%（同29.3%）。
- ・D I（「余剰」の割合－「不足」の割合）は1.5とプラスに転じ、余剰超となった。なお、D Iのプラスは2012年7～9月期（3.0）以来、30四半期ぶり。
- ・業種別では、製造業（15.9）、サービス業（13.1）、卸売業（11.5）で余剰超に転じている。



雇用の動向

業種	前回調査DI (水準、2019年10～12月期)	現況DI (水準、2020年1～3月期)
製造業	△ 1.1	15.9
卸売業	△ 14.7	11.5
小売業	△ 22.2	△ 5.1
サービス業	△ 34.6	13.1
建設業	△ 49.1	△ 31.1
全体	△ 22.2	1.5

- ・2020年1～3月期の従業員数は、全体で「増加」8.2%（2019年10～12月期12.3%）、「不変」77.0%（同68.5%）、「減少」14.8%（同19.2%）。
- ・2020年4～6月期の従業員数は、全体で前年同期比「増加」7.1%、「不変」77.5%、「減少」15.4%。



以上